

第4回（2004年度）佐治敬三賞は 「三井の晩鐘」に決定

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤 剛）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第4回（2004年度）受賞公演を「三井（みい）の晩鐘」に決定しました。

●選考経過

1. 応募のあった2004年実施公演について2005年1月10日（月・祝）東京・丸の内東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行った。
2. 引き続き3月15日（火）東京・港区台場のサントリー株式会社において最終選考会を開催、選考委員9名により慎重な審議の結果、第4回（2004年度）佐治敬三賞に「三井の晩鐘」が選定され、翌16日（水）理事会において正式に決定された。

●賞金は200万円。

●選考委員は下記の9氏。

礒山 雅・伊東信宏・岡田暁生・岡部真一郎・白石美雪
榎崎洋子・沼野雄司・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

イシハラホールにおける「三井の晩鐘」は、希有の公演だった。その成立には、非常に多くの才能が寄与している。

まず、梅原猛氏の絵本『三井の晩鐘』があり、これを梅原氏本人が翻案した原作台本に基づいて石川耕士氏の台本が作られ、その浄瑠璃部分を当代きっての太棹の名手、鶴澤清治氏が作曲し、さらにそれを含み込む形で猿谷紀郎氏によるスコアが書かれ、そして中村功、豊嶋泰嗣氏といった第一線の音楽家たちが集められて、これを上演する。これだけのものが、既成の組織に頼ることなく、一つの小さなホールの主導によって創りだされた、ということに瞠目する。

そして、実際に出来上がった作品の質も高かった。まず浄瑠璃とオーケストラ楽器は、溶け合うのではなく、むしろ並置されるのだが、しかし対立するのでもなく、微妙な形で浸透しあう（太棹の節は、間接的に弦楽器の動機に反映する）。鶴澤氏の演奏を核としながら、それを包みこむ猿谷氏の音楽も、「龍の女」の言葉にならない望みを子音を省いた母音のみによって表象する、という卓越したアイデアをはじめとして、圧倒的な存在感を示した。結果として、いわゆるオペラでもないし、単なる和洋混淆でもない、全くユニークな舞台が生まれた。

これは、大阪という都市の文化的蓄積についての深い理解があってはじめて実現した公演である。「チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演」を顕彰するという、佐治敬三賞の精神に、まさしくふさわしいものであったと思われる。

<公演概要>

名称：「三井（みい）の晩鐘」

日時：2004年10月24日（日）17：00開演

会場：イシハラホール

曲目：第一部 プレトーク「三井の晩鐘」

猿谷紀郎、鶴澤清治 聞き手＝伊東信宏

第二部「三井の晩鐘」

（原作＝梅原猛、作曲＝猿谷紀郎、構成脚色＝石川耕士、

文芸協力＝茂山千之丞、浄瑠璃作曲＝鶴澤清治、演出＝鶴山仁、

演出協力＝石川耕士、美術＝倉本政典、照明＝井口眞）

出演：浄瑠璃＝豊竹呂勢大夫、三味線＝鶴澤清治、ソプラノ＝松岡由佳、

ヴァイオリン＝豊嶋泰嗣、ヴィオラ＝篠崎友美、チェロ＝菊地知也、

コントラバス＝吉田秀、クラリネット＝加藤明久、パーカッション＝中村功

主催：イシハラホール

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

(財) サントリー音楽財団(理事長・堤剛)は、故・佐治敬三(元サントリー株式会社社長、元サントリー音楽財団理事長)の功績を記念して、2001年度(平成13年度)から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団(現サントリー音楽財団)を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演は以下のとおりです。賞の詳細は別紙をご覧ください。

第1回(2001年度)

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」2001年8月31日 横浜みなとみらいホール

第2回(2002年度)

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ・リサイタルホール

第3回（2003年度）

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館小ホール

— 記 —

1. 名 称 「佐治敬三賞」
2. 選考対象 毎年1月1日から12月31日の間に国内で実施された日本人を主体とする音楽公演で応募のあったものが対象になります。清新、独自、冒険の意欲、あるいは若々しさに満ちた企画であり、かつ公演成果の水準の高いすぐれたものを選定します。
3. 選考方法 応募のあった公演について審査を行い、翌年3月の佐治敬三賞最終選考会で受賞公演を選定、発表します。
4. 選考委員 選考はサントリー音楽賞選考委員により行われます。
* 第4回（2004年度）佐治敬三賞の選考委員は、礒山雅、伊東信宏、岡田暁生、岡部真一郎、白石美雪、榑崎洋子、沼野雄司、船山隆、三宅幸夫の各氏です。（50音順、敬称略）
5. 賞 賞状、賞金200万円
6. お問い合わせ先 サントリー音楽財団
〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-4 新日本ビル
電 話 (03) 3589-3694
F A X (03) 3589-5344
<http://www.suntory.co.jp/culture/smf/>

第5回（2005年度）「佐治敬三賞」応募について

2005年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2005年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2005年（平成17年）7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。

- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー音楽財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。

- ・応募期間 2005年4月1日から5月31日

以 上